

“むごい仕打ち(教育)・・・”

今川義元は松平家の人質である家康（竹千代）を育てるにあたり、家臣に対して「竹千代には、できるだけ“むごい仕打ち”を与えよ」と命じたといひます。それを受けた家臣は、竹千代に対して粗末な食事しか与えず、朝から晩まで休みなく武術や力仕事をさせました。ところが、家臣がこうした教育を竹千代にしているということを聞いた今川義元は激怒したといひます。言いつけ通りにしたはずなのに、なぜ今川義元は怒ったのか？それは今川義元が言った家臣に対する言葉からわかります。「人質の竹千代には、好きなだけ馳走を与えよ。寝たいと言ったら、いくらでも寝かせてやれ。夏は涼しく、冬は暖かくしてやれ。学問が嫌だというなら、一切させなくて構わない」

その言葉に耳を疑った家臣達は、最初に言っていた「むごい教育（仕打ち）」とは正反対の命令に首をかしげます。すると今川義元は続けてこう言ひました。「そのようにすれば、たいていの人間はダメになるからだ」

しかし、その後、徳川家康は、『己を責めても人を責めるな』、『人生に大切なことは5文字で言えば「上をみるな」。7文字で言えば「身のほどを知れ」。』など数々の名言を残す名武将となりました。

この話を読んで皆さんは、どう思ひましたか？自分は、「若いうちは買っただけでも苦勞をしろ！」という言葉をお先輩方に言われたのを思ひ出しました。しかし、今の社会は、無理な苦勞はしなくても・・・とか、無理やり苦勞をさせない・・・などが主流になっています。その結果かどうかはわかりませんが、近年では、せつかく大学や専門学校まで卒業しているのに、入社して1か月で退職、最短で1日で、という人もいます。その理由としては、ブラックだからという理由がやはり多いようですが、先日のニュースでは、ホワイトすぎて退職する人も増えていると聞きました。ホワイトで？と思っただけその理由を見てみると、仕事が楽すぎる（誰でもできるような仕事しかふられない）、残業もない、ミスしても叱られない・・・こんな会社において大丈夫なのか？自分はここで成長できるのか？など不安になることが原因のようです。結局、多少大変でもやりがいとか、難しいことにチャレンジすることで成長を実感したり、多少遅くまでかかったとしてもやり終えた時の達成感がないと仕事に対するモチベーションが持てず、続かないみたいです。今の皆さんも先生が中学生のころと違って周りから負荷を与えられることは、かなり少なくなりました。自分の時がよいとは言ひませんが、皆さんは、自分で自身に負荷を与えることが必要になってきていると思ひます。そのためにも自分で少しハードルが高そうな目標に対してもチャレンジする気持ちを持っただけほしいと思ひます。あと、最近では、退職代行を利用する方が増えているようです。この連休明け、かなりの人が活用したそうです。『自律貢献』が校訓の皆さんには、そうならないようになっただけほしいと願っています。